

## 第1章 計画の背景

### 1 栄区の現状と地域福祉の課題

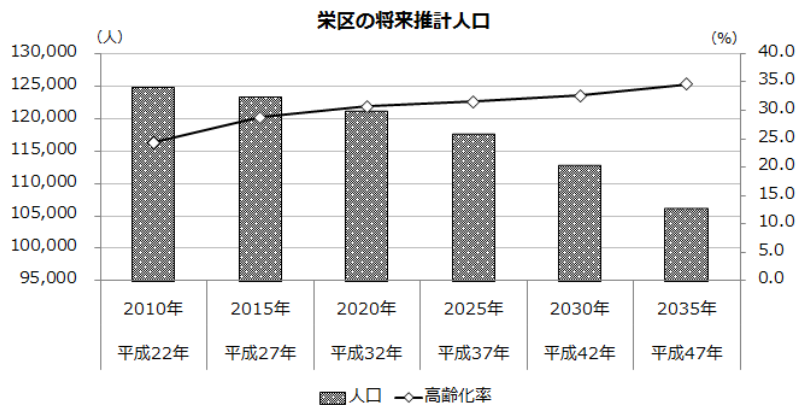
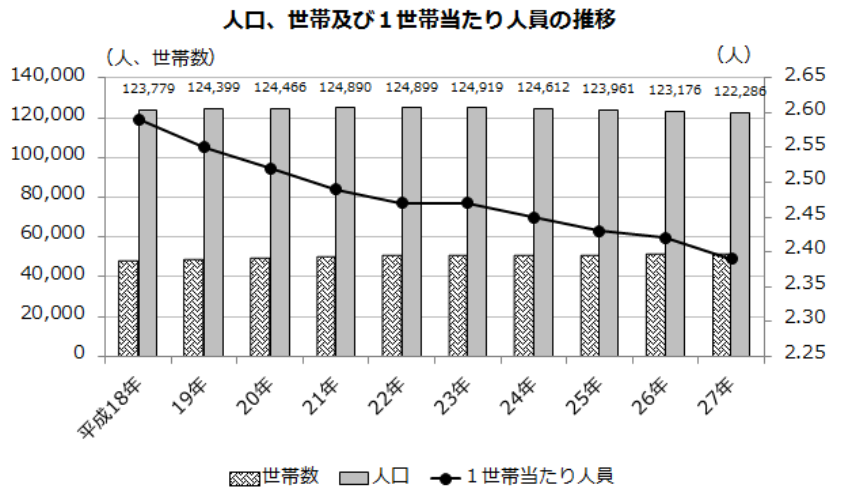
#### (1) 人口の減少

栄区の人口は、昭和30年代後半から50年代前半にかけて、丘陵部の宅地開発によって急増しましたが、昭和60年代以降は微増、平成10年代に入ると横ばいが続き、平成27年1月1日現在の人口は122,286人となっています。一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯当たり人員は減少しています。

今後もこの傾向が続き、平成37年に117,700人、平成47年には106,200人まで減少すると予測されます。

年齢区分別の人口推移では、65歳以上人口（高齢人口）の増加、15～64歳人口（生産年齢人口）の減少、15歳未満人口（年少人口）の減少が進んでいます。現在約4人に一人が高齢者ですが、10年後には3人に一人が高齢者となると予測されています。

これらの人口の動向は、高齢化の進展、少子化の進展、核家族化、一人暮らし世帯の増加をもたらし、日常的な地域生活に大きな影響を及ぼします。



(2) 地域特性

ア 豊かな自然環境

栄区は、市街化調整区域が全体の約3割を占め、山林や農地、河川などの自然環境に恵まれています。緑被率（区域全体における300㎡以上の樹林地・農地・草地等の面積の割合）も、平成26年度調査時には40.6%と市内で2番目に高い値となっています。

これら自然資源の多くは、公園や広場、市民の森等として開放しています。憩いと安らぎの空間であるとともに、子どもが自然に触れる場、地域交流の場、ウォーキングなどのスポーツ・健康づくりの場として活用されています。

特に、区東部にある一団の緑地は、首都圏近郊緑地特別保全区域に指定されており、首都圏エリアでの貴重な緑地となっています。瀬上市民の森・自然観察の森付近から鎌倉までのハイキングコースは、内外からの人気スポットとなっています。

イ 災害へのリスク

栄区防災計画における大規模地震に伴う想定としては、最大震度が震度6強で、人的、家屋ともに多くの被害が出るとされています。特に、沿岸部から離れているため津波の心配はなく、また、火災延焼が懸念される密集市街地はありませんが、大きな揺れによる家屋被害などへの対応などが求められます。

一方、水害へのリスクはあり、これまでも台風などの豪雨に伴い、河川の溢水や浸水被害などがありました。また、河川沿いの多くの区域に避難勧告が出されました。

発生日	浸水発生箇所数	避難勧告世帯数
平成26年10月6日	9	17,859

出典：平成21年4月～26年3月「横浜市の災害」  
平成26年10月6日記者発表  
「平成26年10月6日の避難勧告事案について」

自治会町内会のご協力により、学校体育館や自治会館などへの避難受け入れも行いました。

また、近年、土砂災害へのリスクも懸念されています。栄区には、これまでの丘陵部の開発で残された崖地などが多く点在しており、土砂災害警戒区域が156箇所指定されています。特に、リスクが高い9か所の崖(平成28年3月現在)については、土砂災害警戒情報が発表されると避難勧告が発令されます。

発生日	発生場所
平成25年10月15日	上郷町
平成26年10月5日	飯島町、鍛冶ヶ谷二丁目、桂町、上郷町、公田町、長沼町、長尾台町、野七里一丁目

出典：平成21年4月～26年3月「横浜市の災害」

## ウ まちづくり

栄区は、駅へのアクセスの悪さなど交通利便性が課題となっています。近隣に商業施設が不足しているなどから買い物の不便さなどもあげられています。また、高齢化に伴い、マイカーを持たない、バス運行の削減などから、外出しない人の増加など懸念されます。

現在、首都圏中央自動車道の一部である横浜環状南線などの整備、本郷台駅前の国有地を活用したまちづくり、大船駅付近での再開発事業など進められています。これらまちづくりと合わせ、バス路線の導入・再編なども検討を進めていきます。

また、高齢化が進展している上郷東地区は、これからの福祉・保健・まちづくりなどを総合的に取組んでいくモデル地区として位置づけ、地元でまちづくり協議会を設立し、区役所とともに議論を始めています。

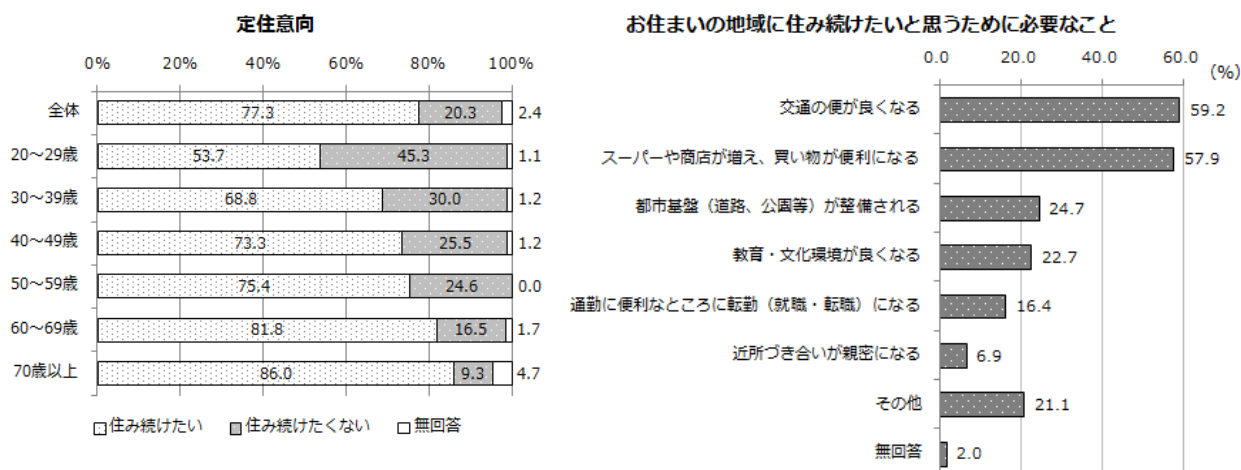


### (3) 区民意識

#### ア 高い定住意向

7割を超える方が、現在の生活に満足を感じ、また、住み続けたいという定住意向を持っています。世代による顕著な違いはありませんが、生活の満足、定住意向はともに、20歳代、30歳代は、他の世代より低くなっています。

また、住み続けたくないと考える方が、住み続けたいと思うために必要なこととしては、交通の便と買い物の利便性があげられています。



出典：平成27年区民意識調査

#### イ 将来への不安

自分や家族のことへの不安としては、自身のこと(自分の病気や老後のこと)、家族のこと(健康や生活のこと)、経済(景気や生活費)の順となっており、特に、自身の将来の不安は50%を超えています。

世代別で見ると、自身の不安は、50歳以上で高くなります。また、30~40歳代は、子育てや教育への不安も高くなっています。

#### ご自身やご家族の生活における心配ごと、困りごと

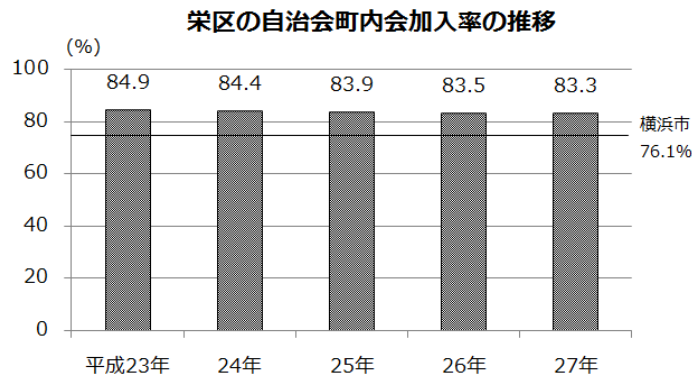
カテゴリー名	全体	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
自分の病気や老後のこと	50.3	26.3	24.1	35.6	47.3	58.6	68.3
家族の健康や生活上の問題	34.0	22.1	32.9	31.6	37.2	33.0	37.4
景気や生活費のこと	28.1	21.1	29.4	32.0	24.6	37.0	23.0
犯罪や防犯のこと	18.7	24.2	18.2	19.8	16.9	18.9	17.8
事故や災害のこと	13.7	14.7	11.8	8.5	12.1	13.8	17.8
子どもの保育や教育のこと	12.7	16.8	44.1	26.3	8.7	4.0	0.8
住宅のこと	12.5	3.2	16.5	10.5	13.0	15.2	12.3
心配ごとや困っていることはない	10.9	17.9	8.8	10.5	10.1	11.1	10.8
仕事や職場のこと	8.9	23.2	15.9	18.2	13.0	2.4	1.3
環境問題	8.4	7.4	7.6	5.3	6.3	14.1	7.8
失業・倒産や収入が減ること	6.9	7.4	6.5	10.5	12.6	5.4	3.4
その他	5.6	5.3	2.9	9.3	5.8	4.7	5.3
近隣からの悪臭・騒音	4.3	9.5	4.7	4.9	5.3	5.1	2.1
無回答	2.9	1.1	3.5	1.6	1.0	2.4	4.2

出典：平成27年区民意識調査

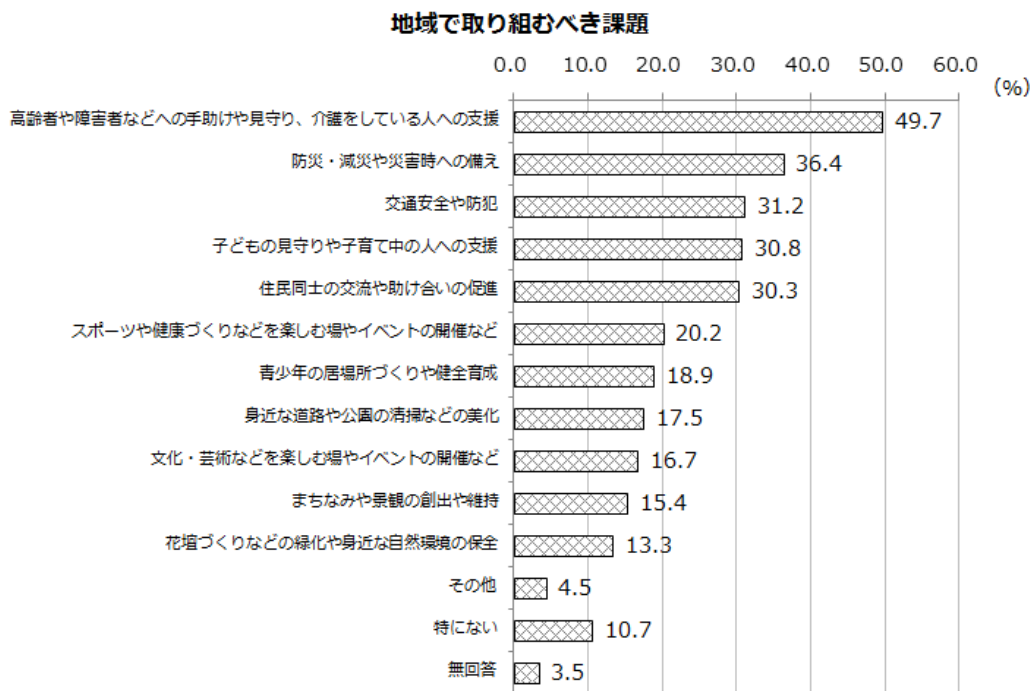
ウ 地域活動として見守りへの期待

栄区は自治会町内会加入率が 83.3%と高く、自治会を主体とした地域活動が活発です。こうした地域活動への期待としては、高齢者・障害者への見守り、防災、交通安全、子どもの見守り、住民同士の交流の順となっています。

世代別で見ると、高齢者・障害者への見守りは、40歳代以上が高くなっており、30歳代は、子どもの見守り、20歳代で防災が高くなっています。



出典：市民局地域活動推進課資料より作成



出典：平成 27 年区民意識調査

#### (4) セーフコミュニティ都市としての認証

##### ア 概況

栄区では、平成 25 年 10 月 5 日に、WHO 協働センターからセーフコミュニティの国際認証を取得しました。セーフコミュニティとは、「致命的な事故やケガは、原因を究明することで予防できる」という考え方のもと、地域ぐるみで安全・安心なまちづくりの活動を継続的に行っているまちのことで、世界で 372 都市、日本では 13 都市が認証されています（平成 28 年 2 月現在）。

セーフコミュニティには 3 つの大きな特色があります。

○地域コミュニティの活動が主役であること

○科学的データを用いて進捗管理を行っていること

○セーフコミュニティに関わっている都市間での交流を行っていること

栄区では、8 つのテーマ別分科会があり、活発な地域活動を背景に、積極的に取組を推進しています。

##### イ 分野別取組

###### ◆こども安全対策分科会

- ・地域の方による登下校時の見守り活動「学援隊」
- ・子ども会活動における「危険予知トレーニング」の実施

###### ◆スポーツ・余暇安全対策分科会

- ・スポーツ時のけが予防に関する研修会の開催
- ・安全なウォーキングの推進

###### ◆交通安全対策分科会

- ・安全な歩き方や自転車の乗り方を教える「はまっ子交通あんぜん教室」
- ・登下校時の見守りや危険箇所改良のためのスクールゾーン対策協議会の開催

###### ◆児童虐待予防対策分科会

- ・地域における子育て家庭の見守り啓発「さかえっ子の笑顔ひろげ隊」事業
- ・生後 4 か月までの赤ちゃんがいる家庭への全戸訪問「こんにちは赤ちゃん訪問」

###### ◆高齢者安全対策分科会

- ・転倒による事故防止、体力づくりのための「元気づくりステーション」
- ・浴槽内での溺死・溺水防止のための「ヒートショックプロジェクト」

###### ◆災害安全対策分科会

- ・地域防災拠点における実践的な訓練の実施
- ・災害時要援護者支援の取組

###### ◆自殺予防対策分科会

- ・身近な人の変化に気付き、専門機関へつなげる「ハートフルサポーター」育成
- ・メンタルヘルスの観点を取り入れた啓発、専門職の対応力向上

###### ◆防犯対策分科会

- ・声掛けによる振り込め詐欺防止
- ・地域における防犯パトロール

## 2 第3期計画における7つのテーマ

これらの栄区の現状と地域福祉の課題を踏まえた7つの論点を基に議論を重ね、第3期さかえ・つながるプラン（栄区地域福祉保健計画）では、次の7つのテーマを設定しました。

### 《7つの論点》

- (1) 超高齢社会の安全、安心を支える地域コミュニティとは
- (2) 安心感のある子ども子育てができる地域コミュニティとは
- (3) 健康志向生活を送ることができる地域コミュニティとは
- (4) 地域コミュニティが担う福祉的側面からの防災対応とは
- (5) 地域コミュニティが行政と連携してできる生活困窮者の支援とは
- (6) 障害者が安心して暮らせる地域コミュニティとは
- (7) 福祉保健の充実に向けての地域社会のあり方や各主体の役割は

### 《7つのテーマ》

- (1) 栄区らしい共助社会づくり
- (2) いつまでも安心して暮らせる地域社会づくり
- (3) 地域が支える出産・子育てから青年期までの切れ目のない支援
- (4) 区民総ぐるみの健康ライフスタイル
- (5) 地域防災における福祉的視点の充実強化
- (6) 障害者が安心して暮らせる地域づくり
- (7) 地域と連携した生活困窮者支援